

令和 8 年度 事業計画

(令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日)

I 公益目的事業

[公 1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

- 1) JCI-TC241A コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会
(令和 6-8 年度)

自己治癒材（無機系，有機系，微生物系等）の効果発現に対する環境影響の評価および効果が持続するための環境条件について知見を整理し，コンクリート内部環境の評価指標を抽出するとともに自己治癒効果の評価方法を提案することを目的とし，①主に微生物系自己治癒材とセメント硬化体の相互作用に関する知見整理，②環境条件が自己治癒性能に与える影響に関する文献調査，③微生物と繊維補強コンクリートの混合使用が自己治癒性能に与える影響に関する曝露実験，ならびに④非破壊試験を用いた共通試験により実構造物における自己治癒効果の評価方法を検討した。令和 8 年度はこれまでの活動成果を委員会報告書として取りまとめ，成果報告会を開催する。

- 2) JCI-TC242A コンクリート分野における電磁波の高度利用に関する研究委員会
(令和 6-8 年度)

数百 MHz～数百 THz の周波数帯の電磁波に関して，従来の鉄筋探査等への適用だけでなく，コンクリート内部や損傷状況の可視化，塩分・水分等の劣化因子の把握，鉄筋腐食状況の評価等のコンクリート分野への高度利用に対する技術の調査，普及のための検討を行ってきた。令和 8 年度においては，これまでに検討してきた内容を報告書として取りまとめ，成果報告会を開催する。なお，報告書には，コンクリート分野だけでなく，関連する分野の研究開発動向，適用事例等について幅広く実施した調査結果を盛り込んでいく。

- 3) JCI-TC243A 予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会
(令和 6-8 年度)

現行の 5 年毎の橋梁定期点検では，劣化の把握時点において既に鉄筋腐食が相当程度進行している場合が少なくなく，結果として対策は事後保全的対応に偏りがちである。そこで，劣化の初期段階における状態を高精度に評価可能な点検手法を確立し，予防保全型維持管理への転換を図ることを目的として活動を行ってきた。令和 6～7 年度においては，①中性化深さの評価方法，②塩化物イオン濃度の評価方法，③鉄筋腐食度の評価方法の検討を行う WG を設置し，中性化およ

び塩害を対象とした文献調査，現状の点検手法の整理，ならびに予防保全に適用可能な点検技術の体系化に関する検討を実施した。令和8年度は，これまでの検討成果を総括し，予防保全型点検手法の具体的提案を盛り込んだ委員会報告書を作成する。また，その成果を広く共有するため，成果報告会を開催する。

4) JCI-TC244A 鉄筋コンクリート造構造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会

(令和6-8年度)

2011年東北地方太平洋沖地震以降，学協会や研究者レベルで行ってきた津波荷重を対象とした鉄筋コンクリート造構造物や部材の局部破壊に対する構造設計法に関わる知見を取りまとめることを目的として，技術資料や研究事例等を文献収集するとともに，それらを用いた構造設計例の提案を行った。また，RC柱部材に対して津波漂流物の衝突を想定した構造実験を実施し，補強対策の実証と提案を行った。令和8年度においては，これまでに検討してきた内容を報告書として取りまとめ，成果報告会を開催する。

5) JCI-TC251A コンクリート構造物の崩壊過程の予測・評価に関する研究委員会

(令和7-8年度)

鉄筋コンクリート系の土木構造物・建築物は，大規模地震等に際して，倒壊・崩壊に至る場合がある。いわゆるポストピークを含むこのような挙動の予測・評価手法としては，多様な解析技術から理論的・経験的背景に基づくものまで様々提案されており，対象も要素や柱や橋脚などの部材レベルから，建物全体や架構システム（例えば桁と橋脚からなるシステム全体）まで多岐に渡り，確立された状況とは言えない。昨年度は，二十余年前に報告された本学会のポストピーク挙動に関する研究委員会資料からの進展状況のほか，倒壊・崩壊に至る実現象の分析事例も含めて，研究・技術開発情報を収集した。令和8年度は，情報収集を継続して進めるとともに，既に収集した情報に基づき，手法や対象などに応じて可能な範囲で知見を整理し，倒壊や崩壊の定義方法や考え方の指針を提示する。

6) JCI-TC252A カーボンニュートラルを視野に入れた基礎・地盤に用いるコンクリート系技術の土木・建築共通化に関する研究委員会

(令和7-8年度)

セメント・コンクリートは杭基礎や地盤改良のように基礎・地盤にも用いられているが，技術基準が土木・建築のような分野ごと，あるいは道路・鉄道・港湾などインフラの種類ごとに作られているため，要求性能や性能評価の方法に相違がある。そこで，各基準の内容を調査し，共通化の可能性を検討することで，設計の合理化や複数分野にまたがる構造物の計画に資する情報を提供することを目指す。昨年度は，基礎杭の設計やCO₂排出量削減技術に関する情報収集を行い委員会内で意見交換を行った。令和8年度は，基礎工事や地盤改良工事のカーボンサイクルを検討し，カーボンニュートラル達成への貢献の可能性を探る。

7) JCI-TC253B コンクリート構造とコンピュータビジョンの融合に関する研究委員会

(令和7-8年度)

デジタル画像相関法(DIC)に代表されるコンピュータビジョン(CV)を活用したコンクリート系の構造実験の事例を収集し，CVの処理プロセスおよび撮影条件・解析条件が結果に及ぼす影響

を体系的に整理することを目的とする。昨年度は、委員各位の CV 技術の最新の成果を共有するとともに、(1) DIC と有限要素法による解析結果を対応づけるための要素サイズとひずみ計測精度の関係の検証、(2) 普通・繊維補強コンクリートを対象とした DIC による損傷評価法の構築、および(3) 計測ひずみ分布に基づき構造の耐力評価法を検討してきた。令和 8 年度はこれらの検討結果を取りまとめ、本学会誌への寄稿を通して CV 技術の普及および発展に寄与する。

8) JCI-TC254B 高濃度 NaCl 水溶液を用いたコンクリートの配合設計に関する研究委員会
(令和 7-8 年度)

飽和濃度に近い NaCl 水溶液を用いたコンクリートは蒸気圧降下を利用することでコンクリートを自己養生しつつ乾燥収縮も抑制するなどの性能が向上することがある。また、溶存酸素量が減少することでコンクリート中の鋼材腐食を抑制できる可能性がある。しかし、ASR の危険性や溶質の存在がフレッシュ特性および圧縮強度に及ぼす影響を詳細に検討した事例は少ない。昨年度は、飽和濃度に近い NaCl 水溶液を用いたコンクリートのフレッシュ性状試験、圧縮強度試験、促進膨張試験、鋼材腐食試験および文献調査を行い、高濃度 NaCl 水溶液がフレッシュ性状、強度、ASR、鋼材腐食に及ぼす影響について検討を行った。令和 8 年度は、引き続きこれらの調査・研究を進めるとともに、高濃度 NaCl 水溶液を用いたコンクリートに適した骨材の特徴、配(調)合設計の考えの方向性および鉄筋コンクリートへの適用の可能性について検討する。

9) JCI-TC261A コンクリート構造物の実務における機能継続性と安全性評価方法の日米比較に関する研究委員会
(令和 8-9 年度)

米国の ACI374 委員会と協力し、建築・土木における、鉄筋コンクリート構造の応答解析を用いる性能評価型耐震設計の実務を対象として、以下の 2 点に関する活動を行う。① 設計体系の中の米国の「機能継続性」と日本の「L1 相当地震動に対する検討(一次設計)」の定義、検証方法、およびそのクライテリアの共通点・相違点を整理する。特に、米国側の現状と目指している将来像についても調査する。② 「米国の基準による設計例を日本の基準で評価した時の問題点」および「日本の基準による設計例を米国の基準で評価した時の問題点」を、特に機能継続性および一次設計の観点から抽出・検討する。

10) JCI-TC262A コンクリート 3D プリンティングの品質・性能保証と設計体系に関する研究委員会
(令和 8-9 年度)

国内外で社会実装が加速するコンクリート 3D プリンティング技術を対象に、埋設型枠のみならず直接造形や補強一体化等の多様な工法を包含した包括的な品質・性能保証と設計体系の構築を目指す。具体的には、ISO や fib 等の国際標準化動向の調査、積層構造特有の異方性や層間接着等の特性を考慮した設計手法の検討、および建築・土木横断で利用可能な品質管理チェックリストの作成を行う。初年度は、国内外の最新技術・制度動向の体系的整理とともに、性能検証のための共通試験(Round Robin Test)の枠組み構築に向けた抽出課題の整理を実施し、技術指針の高度化に資する基礎的知見を蓄積する。

11) JCI-TC263A 持続可能なインフラの実現に資する ASR の制御・管理に関する研究委員会
(令和 8-9 年度)

持続可能なインフラの実現に向け、アルカリシリカ反応（ASR）による劣化の制御と管理手法を材料・構造の両面から体系的に整理する。材料面では、環境負荷低減に資する副産物の大量利用や新材料を用いた際の ASR リスクを、材料構成や環境条件に基づき整理し、実務的な評価上の留意点を明らかにする。構造面では、既存構造物の膨張・ひび割れが性能に及ぼす影響を評価し、点検結果の適切な解釈に基づく補修・補強等の対策選択の考え方を整理する。さらに、最新のメカニズム知見や予測手法を俯瞰して今後の研究方向性を提示するとともに、国際学会(RILEM)や国際会議(ICAAR)との連携を通じて、日本の先進的な ASR 制御・管理に関する研究・技術を海外へ発信することを目的とする。

12) JCI-TC264A 火山性堆積物のコンクリート用材料としての効果的な活用方法に関する研究委員会 (令和 8-9 年度)

火山性堆積物のコンクリート用材料としての利用に関する研究は古くから行われ、シラスを細骨材として利用したシラスコンクリートは既に社会実装されている。また、火山性堆積物の混和材利用としての研究も進み、コンクリート用火山ガラス微粉末として JIS 化され、カーボンニュートラル実現のための方策として期待されている。しかし、いずれも需給バランスの取れた実用化までは課題を残しているのが現状である。そこで、火山性堆積物利用の実態および物性、耐久性に関する知見を整理し、混和材利用にとどまらず、細骨材利用や混和材および細骨材としての併用利用など広範囲に調査を行い、より効果的な活用方法について検討する。

(2) 技術委員会所管の委員会

1) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリート工事の実務者を対象に、コンクリートの製造および施工に関わる基本技術と新技術を整理し情報発信を行うことを目的としている。令和 8 年度は、昨年度より活動を開始した生コン調査 WG と施工調査 WG で、規格や基準のルーツ・変遷を中心とした調査活動を行う。また、各支部と連携し、1年に2回程度のセミナーを主催する予定である。

2) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会

前年度までの9か年にわたる活動に引き続き、共通試験 WG およびモニタリング WG にて活動を行う。共通試験 WG では、「端島（通称『軍艦島』）における補修材の効果検証に関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、端島において様々な補修を施した上で暴露した鉄筋コンクリート試験体を対象に、また同様に、「端島（通称『軍艦島』）における補修材の効果検証に関する試験施工実施についての基本覚書」に則って、2025 年度に補修試験施工を行った 70 号棟の実部材を対象に、定期的に劣化の進行状況や物理的・化学的な変化を観察・測定し、その結果に基づく分析から塩害劣化の進行・抑制のメカニズムおよび補修効果を検討する。モニタリング WG では、端島に残存する自然倒壊が間近に迫っている 30 号棟を対象に実施されている遠隔地モニタリングの結果に基づく分析・解析を行うとともに、入坑栈橋やその他重要な建造物の常時微動計測や構造耐力調査を行う。

3) 既存コンクリート構造物の性能評価指針改訂原案作成委員会

既存構造物の状態や保有性能を適切に評価し、補修・補強を加えながら長寿命化を図り、でき

るだけ長期間にわたって使用できる環境を作り上げることを目的として、2014年に「既存コンクリート建造物の性能評価指針2014」が刊行された。本指針は、既存コンクリート建造物の性能評価に対する一般的な要求事項とその方法や手順を規定するものであると同時に、実務者向けの数多くの情報はもちろんのこと、将来の方向性に関する研究者向けの情報も盛り込まれている。刊行から既に10年以上が経過したため、ここに改めて最新の情報を収集し、2028年度中の改訂版刊行を目指す。これに向け、昨年度は、既存コンクリート建造物の性能評価の事例検討を実施した。令和8年度は、引き続き事例検討を実施するとともに、改訂版指針の構成について検討を行う。

4) アルカリ活性材料に関する JCI 規準原案作成委員会

ジオポリマーを含むアルカリ活性材料（AAMs）は、使用材料および反応機構がセメント系材料と根本的に異なるため、セメント系材料の物理化学特性評価手法の一部は適用が困難である。また、製造・施工に関する規格や指針は未整備であり、海外規準も対象範囲が限定されている。そこで令和8年度から、セメント系材料に関する既存の規準ならびに諸外国のAAMsに関する規準を参考に、我が国でのAAMs社会実装に資する規準類の整備に向け、JCI規準原案の作成に着手する。

(3) 支部研究委員会（確定している委員会のみ記載）

- 1) (北海道支部) 北海道におけるコンクリートの化学的浸食検討委員会 (令和7-8年度)
- 2) (北海道支部) 寒冷地環境下における高炉スラグ系セメントの化学的活性化に関する調査研究委員会 (令和8-9年度)
- 3) (東北支部) コンクリート建造物の再劣化に関する調査研究委員会 (令和7-8年度)
- 4) (東北支部) 東北地方におけるコンクリート建造物の劣化進行に関する調査研究委員会(第Ⅲ期) (令和8-9年度)
- 5) (関東支部) 関東地域の地方自治体におけるコンクリートインフラの維持管理委員会(仮称) (令和8-9年度)
- 6) (中部支部) 中部国際空港鉄道連絡橋疑似橋脚での材齢100年間のモニタリング調査委員会 (常置委員会)
- 7) (中部支部) 旧名古屋陸軍兵器補給廠関ヶ原分廠(火薬庫)調査研究委員会 (令和7-8年度)
- 8) (中部支部) 小規模橋梁を対象としたコンクリート用DIY補修のあり方調査研究委員会(第2期) (令和7-8年度)
- 9) (近畿支部) 各種コンクリートの品質管理におけるDX化・省力化および合理化に関する調査研究委員会 (令和7-8年度)
- 10) (近畿支部) 丹後震災記念館の調査(WG) (令和7-8年度)
- 11) (中国支部) 廃棄物を用いた低炭素耐火被覆材の調査研究委員会 (令和7-8年度)
- 12) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常置委員会)
- 13) (四国支部) コンクリート建造物の品質確保のための新技術開発と実践に関する研究委員会

- (第2期) (令和8-9年度)
- 14) (四国支部) 四国におけるインフラコンクリート構造物のメンテナンスに関する研究委員会
(令和7-8年度)
- 15) (九州支部) 副産物・地域材料を用いたコンクリートに関するレビュー研究専門委員会
(令和8年度)
- 16) (九州支部) 九州におけるコンクリート産業の持続可能性に関する研究委員会
(令和7-8年度)

2. 標準化事業

(1) 規準・指針管理委員会

研究専門委員会および規準・指針原案作成委員会等から提案および審査の申請がなされた規準原案・指針(改正)原案に対し、「日本コンクリート工学会規準・指針の制定/改正に関する規程」に基づく審査を行い、妥当と判断された原案については理事会へ付議する。また、制定済みのJCI規準で制定(もしくは前回確認および改正)から5年経過したものについて使用状況の調査を行い、確認/要改正/要JIS化/廃止の判断を行う。

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

令和10年度に見直し期限を迎える規格について、改正要否の検討を行う。また、令和9年度に見直し期限を迎える規格のうち、以下の規格①について追補改正原案を作成する。また、昨年度改正原案を作成した以下の規格②～④について主務大臣に改正の申出を行い、日本産業標準調査会の審議を受ける。

- ① JISA 1104 骨材の単位容積質量及び実積率試験方法
- ② JISA 1145 骨材のアルカリシリカ反応試験方法—化学法—
- ③ JISA 1146 骨材のアルカリシリカ反応試験方法—モルタルバー法—
- ④ JISA 1191 コンクリート補強用FRPシートの引張試験方法

(3) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 総会, TC71 の各分科委員会(SC) および TC71 直下の WG 等の会合に TC 議長・委員会マネージャー, SC 議長・委員会マネージャー, WG コンビーナおよび関連分野のエキスパートを派遣し, 日本が主導する規格開発の説明を行い, 規格作成に日本の意見を反映させる。
- 2) ISO/TC71 において, 以下の役割を遂行する。
 - ① TC71 (コンクリート, 鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリート): TC の議長, 委員会マネージャーおよび委員会メンバー (TC71 直下の WG 等は後述)。
 - ② SC1 (コンクリートの試験方法): SC の委員会メンバー。WG のエキスパート。
 - ③ SC3 (コンクリートの製造および施工): SC の委員会メンバー。WG のコンビーナ。WG・AHG のエキスパート。
 - ④ SC4 (構造コンクリートの要求性能): SC の委員会メンバー。WG のエキスパート。
 - ⑤ SC5 (コンクリート構造物の簡易設計標準): SC の委員会メンバー。WG のコンビーナおよび

びエキスパート。

- ⑥ SC6 (コンクリートの新しい補強材) : SC の議長, 委員会マネージャーおよび委員会メンバー。WG のコンビーナおよびエキスパート。
- ⑦ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修) : SC の議長および委員会メンバー。WG のコンビーナおよびエキスパート。
- ⑧ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント) : SC の議長, 委員会マネージャーおよび委員会メンバー。WG のコンビーナおよびセクレタリー。WG・AHG のエキスパート。
- ⑨ SC9 (鋼コンクリート合成・複合構造) : SC の委員会メンバー。WG・AHG のエキスパート。
- ⑩ TC71/CAG (議長諮問グループ) : コンビーナおよびエキスパート。
- ⑪ TC71/WG1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント) : コンビーナおよびエキスパート。
- ⑫ TC71/WG3 (コンクリートの用語) : コンビーナおよびエキスパート。
- ⑬ TC71/AHG2 (コンクリートおよびコンクリート構造物の非破壊試験方法) : コンビーナおよびエキスパート。
- ⑭ TC71/AHG3 (プレストレストコンクリート杭) : エクスパート。

3) 国内関係機関と連携し, ISO/TC71 に提案される各種規格案等の投票に対応する。

4) 日本から提案する次の ISO 規格案について, 国内外において情報収集・意見収集を行うとともに, 各国との調整を行い, 早期の規格化を図る。

(新規)

- ① コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント (使用段階)
- ② 施工時, 竣工時, 管理時のコンクリート構造物の非破壊試験方法

(継続)

- ① コンクリートの発注・製造・品質管理に関する ISO 22965-1 及び ISO 22965-2 (改正)
- ② 水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計法 ISO 18407 (改正)
- ③ 繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強—試験方法 ISO 10406-3 (改正)
- ④ FRP を用いたコンクリート構造物の設計ガイドライン ISO 14484 (改正)
- ⑤ 繊維補強セメント複合材料の試験方法—4 点曲げ試験による曲げモーメント—曲率曲線 ISO 21914 (改正)
- ⑥ 火害を受けたコンクリート構造物の診断・補修 ISO/CD 13117
- ⑦ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント ISO/DIS 13315-7 (コンクリート構造物の最終段階)
- ⑧ コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量 ISO/WD 21282-1 (通則), ISO/CD 21282-2 (酸分解—逆滴定法), ISO/CD 21282-3 (熱分解—重量測定法)
- ⑨ コンクリート用語 ISO/AWI 25511-1 (用語の分類)

5) ISO/TC156/SC1 (Corrosion control engineering life cycle), ISO/TC195/SC1 (Machinery and equipment for concrete work) および ISO/TC261 (Additive manufacturing) のリエゾン代表者を務める。

(4) **コンクリート及びコンクリート構造物に関する環境マネジメント JIS 原案作成委員会**

JIS Q 13315 (コンクリート及びコンクリート構造物に関する環境マネジメント) の規格群について、新たに「JIS Q 13315-3 (第3部: コンクリート構成材料及びコンクリートの製造)」、「JIS Q 13315-5 (第5部: コンクリート構造物の施工)」および「JIS Q 13315-6 (第6部: コンクリート構造物の使用)」の JIS 原案を作成する。

3. 国際化事業

(1) *fib*

- 1) 技術評議会と総会に代表委員を派遣する。
- 2) PC 工学会と共同でナショナルレポート 2026 を作成する。
- 3) *fib* コンgress 2030 準備委員会において、2030 年に京都で開催される *fib* コンgress 2030 の開催準備を PC 工学会と共同で行う。

(2) ACI

ACI Concrete Convention に代表委員を派遣する。

(3) RILEM

RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。JCI-RILEM の共同ウェビナーを企画・運営する。

(4) ACF

代表委員を派遣するとともに、ACF の諸事業活動を積極的に支援する。ACF 総会・Executive Council 会議は、10月14日(水)～17日(土)に台湾にて開催される The 11th International Conference of the Asian Concrete Federation の期間中に予定されている。

(5) TCI

コラボレーション活動の更なる発展を目指して、学生および若手研究者・技術者の交流の場としてのジョイントセミナーを令和8年度も日本と台湾で開催する。セミナーの前後には、現場見学会を開催して参加者に技術の実態を体験してもらうとともに、新たな研究開発や技術開発の端緒に繋げてもらう。今年度は更に特定テーマに関して、両学会で共催する講習会の実施や委員会活動の立ち上げを検討する。

(6) 2nd MC3 Conference

9月28日(月)～30日(水)に東京大学・武田ホールにて「セメント・コンクリートのための無機炭酸塩化技術に関する第2回国際会議」を開催する。

4. 受託研究事業

(1) ISO/TC71 対応国内委員会

国際標準の開発を目的とした次の受託研究業務を実施する。

- ・コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントを支援する調査・診断・補修技術に関する国際標準化（TC71 幹事国対応業務を含む。）

(2) コンクリートおよび構成材料の CO₂ 固定量の評価方法に関する JIS 原案作成委員会

JISA 1016（コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量）の規格群を構成する 4 件の JIS 原案を作成する。

(3) コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する研究委員会

コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する基本的な考え方に関して令和 6～7 年度に行った検討結果を踏まえ、成果報告書を取りまとめるとともに、その概要を本学会ホームページ上で公開する。

5. 出版事業

- (1) コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'26」
- (2) コンクリート技士・主任技士研修テキスト「2026 年度コンクリート技士・主任技士研修テキスト」
- (3) コンクリート診断士研修資料「コンクリート診断士研修資料'26」（ダウンロード版）
- (4) コンクリート診断士講習テキスト「コンクリート診断技術'27」
- (5) コンクリート工学年次論文集 第 48 巻 2026 年（電子公開）
- (6) Technical Committee Reports 2026（JCI 研究委員会報告書要旨：電子公開）
- (7) 「コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会」報告書
- (8) 「コンクリート分野における電磁波の高度利用に関するシンポジウム」委員会報告書・論文集
- (9) 「予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会」報告書
- (10) 「鉄筋コンクリート造構造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会」報告書

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

「コンクリート工学」を毎月 1 回刊行して会員に頒布する。また、会員には発刊 1 年後に電子公開し、非会員には 3 年後に電子公開する。

年 3 回の特集号のテーマは以下のとおり予定している。

- | | |
|------------------------|-------------|
| 1) プレキャストコンクリートの現在と展望 | 2026 年 5 月号 |
| 2) 繊維補強コンクリートの現在と未来（仮） | 2026 年 9 月号 |
| 3) （未定） | 2027 年 1 月号 |

また、文献調査委員会により審議された「レビュー論文」を年 9 回掲載する。

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を電子公開する。

(3) 英文ジャーナル

英文ジャーナル“Journal of Advanced Concrete Technology”を電子公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。社会一般に向けた啓蒙活動として、情報コミュニケーション委員会において本学会ホームページの内容向上を図るとともに、会誌「コンクリート工学」、パンフレット（和文、英文）等により本学会の活動について広報活動を行う。

広報委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

1) 情報コミュニケーション委員会

本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い、定期的な更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。主な活動は以下のとおりである。

- ① 月刊コンクリート技術（一般向けコンテンツ）を制作、公開する。
- ② メールニュースを作成し配信する。
- ③ 研究委員会報告書を会員専用ページに電子公開する。
- ④ 過去コンテンツ（増刊コンクリート技術等）の管理を継続する。
- ⑤ ホームページを活用したコンクリートに関する技術や研究成果の普及に向けた取り組みを行う。
- ⑥ ホームページを活用した広報に関する方策を検討する。
- ⑦ ホームページの追加リニューアル内容（研究委員会報告書データベースの改修等）を検討する。

2) コンクリート女性連携促進検討委員会

コンクリートに関わる女性の連携を促進させる具体的な仕組みを検討する。令和8年度の主な活動は以下のとおりである

- ① コンクリートに関わる女性との通信方法の検討
- ② 建設産業女性定着支援ネットワークとの連携による PR 活動（建設産業女性定着ホームページの更新・充実）、ブロック意見交換会への参加、全国大会への参加
- ③ 女性連携のための「現地見学および意見交換会」の開催(支部との共催)

(2) 普及活動

普及委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

1) マスコンクリートソフト普及委員会

前年度に引き続き、セメントの水和発熱、自己収縮、乾燥収縮および化学的膨張に起因する初期応力を有するコンクリート構造物の温度応力・ひび割れ幅解析、3次元保有耐荷力解析の各機能を有するプログラム（JCMAC シリーズ）について、機能拡張およびユーザーサポートを行う。特に、令和8年度は、新たに JCMAC3-U 英語版および JCMAC3-PSU のリリースを計画している。また、マスコンクリートのひび割れ制御指針普及委員会と連携し、同指針

2025 と JCMAC シリーズの組合せで JCI のマスコンクリート技術の普及活動を行う。

2) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針普及委員会

令和4年度に改訂された「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針 2022」を主たるベースとした指針講習会の実施等により同指針の普及を図る。主な活動は以下のとおりである。

- ① 国内講習会（長崎, 盛岡, 広島）の実施
- ② 実構造物のひび割れ実態調査（軍艦島）の実施
- ③ 補修材料や工法に関する耐用年数 WG の運営
- ④ 2022 年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑤ 2022 年版指針マンション編に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑥ 2022 年版指針ひび割れ判定ソフト Web 版に対する質問や修正指摘等への対応
- ⑦ 次期指針改訂に向けての情報収集と整理

3) マスコンクリートのひび割れ制御指針普及委員会

「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2025」を広く認知してもらうために、2026 年度から全国で講習会を開催していく。講習会では、指針改訂内容の説明のほか、新たに提案したひび割れ幅の簡易推定法の解説に加え、JCMAC3 を用いた 3 次元温度応力解析結果との精度比較などの例も示す。また、「マスコンクリートソフト普及委員会」との連携を進める。

8. 関連学会との協力活動

「(一社) 防災学術連携体」および日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」に委員を派遣するほか、「建設系 7 学会会長懇談会」に参画するなど、他学協会との協力活動を行う。

9. 助成金事業

助成金制度規則に基づき、コンクリートに関する研究助成およびコンクリートに関する国際会議参加助成を行う。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2026 (奈良) を 7 月 8 日 (水) ~ 7 月 10 日 (金) の 3 日間、奈良県コンベンションセンターで開催する。

- 1) 第 48 回コンクリート工学講演会
- 2) 生コンセミナー：テーマ「悠久の地で大議論！生コンの未来!!」
- 3) コンクリート構造物診断セミナー：テーマ「歴史的構造物に学ぶサステナブルな維持管理～

古都の知恵と AI 診断技術の融合～」

4) 特別講演会：

- ① 演題 高松塚古墳が語る古代の土木技術
講師 廣瀬覚氏 (奈良文化財研究所)
- ② 演題 平城宮第一次大極殿院の復元研究～建築考古学の現場
講師 鈴木智大氏 (奈良文化財研究所)

5) 見学会：

- ① A コース 宮内庁正倉院事務所見学ツアー
- ② B コース 近鉄旧生駒トンネル見学ツアー
- ③ C コース 奈良文化財研究所廣瀬室長と巡る明日香村～飛鳥資料館ツアー
- ④ D コース 奈良文化財研究所鈴木室長と巡る平城宮跡ツアー

6) 懇親会：ホテル日航奈良

7) キング・オブ・コンクリート

2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

2026 年度コンクリート技術講習会を 10 月～11 月にかけてオンライン (オンデマンド形式) で実施する。

(2) 研究委員会

研究委員会所管の報告会を次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会」報告会
日 時：9 月 18 日 (金) 時間未定
場 所：対面 (東京都内) + オンライン (ライブ形式+オンデマンド形式)
- 2) 「コンクリート分野における電磁波の高度利用」に関するシンポジウム
日 時：9 月 17 日 (木) 10:00～17:00 (予定)
場 所：対面 (東京都内) + オンライン (ライブ形式+オンデマンド形式)
- 3) 「予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会」報告会
日 時：9 月 15 日 (火) 時間未定
場 所：対面 (きゅりあん 品川区立総合区民会館 小ホール)
- 4) 「鉄筋コンクリート造構造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会」報告会
日 時：9 月 25 日 (金) 13:00～17:00 (予定)
場 所：対面 (東京大学生産技術研究所) + オンライン (ライブ形式+オンデマンド形式)

(3) 技術委員会

技術委員会所管の報告会, セミナーを次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリート基本技術調査委員会」セミナー
日 時：未定

場 所：対面（未定）＋オンライン（ライブ形式＋オンデマンド形式）

（４）普及委員会

普及委員会所管の講習会，セミナーを次のとおり開催する。

1) 「コンクリートのひび割れ調査，補修・補強指針 2022」講習会

日 時：未定

場 所：対面（長崎市内未定）

日 時：未定

場 所：対面（盛岡市内未定）

日 時：未定

場 所：対面（広島市内未定）

2) 「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2025」講習会

日 時：2026年8月（予定）

場 所：対面（東京都内未定）

日 時：2026年12月（予定）

場 所：対面（福岡市内未定）

日 時：2027年3月（予定）

場 所：対面（仙台市内未定）

3) 「マスコンクリートソフト普及委員会」JCMAC3 初級者セミナー

日 時：未定

場 所：対面（未定）

（５）標準化委員会

JIS A 1016-1（コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量－第1部：定量方法），JIS A 1016-2（同 第2部：酸分解－逆滴定法による測定）およびJIS A 1016-6（同 第6部：熱分解－重量測定法による測定）の制定後に講習会を開催する。

日 時：未定

場 所：対面（東京都内）＋オンライン（ライブ形式）

（６）支部

支部主催の講演会，講習会，報告会，見学会を次のとおり開催する。（確定している項目のみ記載）

1)（北海道支部）「コンクリートの日 in HOKKAIDO」見学会

日 時：未定

場 所：未定

2)（北海道支部）「コンクリートの日 in HOKKAIDO」出前講座

日 時：未定

場 所：未定

3)（北海道支部）支部総会（活動報告会）特別講演会

- 日 時：5月29日（金）
場 所：未定
- 4) (東北支部) 第21回コンクリート診断技術研鑽のための勉強会
日 時：未定
場 所：未定
- 5) (東北支部) 東北支部30周年記念見学会（仮）
日 時：未定
場 所：東北各地
- 6) (関東支部) 特別講演会（支部総会后）
日 時：5月29日（金）
場 所：都市センターホテル
演 題：「東京の都市再生：国際競争力の強化に向けて」
講 師：大沢昌玄氏（日本大学）
演 題：「首都高速道路における大規模更新プロジェクト概要」
講 師：阿部紀征氏（首都高速道路(株)）
- 7) (関東支部) 支部創立30周年記念・若手会2125周年行事（パネルディスカッション）
日 時：5月29日（金）
場 所：都市センターホテル
演 題：「これからのコンクリートと若手への期待」（仮称）
パネラー：長瀧重義氏（東京工業大学 名誉教授）
林 静雄氏（東京工業大学 名誉教授）
丸山久一氏（長岡技術科学大学 名誉教授）
若手会21メンバー
- 8) (関東支部) コンクリート女性連携促進検討委員会と連携した見学会や意見交換会
日 時：未定
場 所：未定
- 9) (関東支部) 「わかりやすいコンクリート講座 ～コンクリート実務の基本～」講習会
日 時：未定
場 所：未定
- 10) (中部支部) 支部活動報告会特別講演会
日 時：5月21日（木）
場 所：名古屋大学 ES 総合館1階 ES ホール
演 題：未定
講 師：未定
- 11) (中部支部) 支部総会特別講演会
日 時：令和9年1月

- 場 所：未定
- 12) (中部支部) 現場見学会
日 時：未定
場 所：未定
- 13) (中部支部) 学生研修会
日 時：未定
場 所：未定
- 14) (近畿支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月22日(金)
場 所：未定
- 15) (近畿支部) 学生向けセミナー
日 時：8月頃
場 所：未定
- 16) (近畿支部) 会員向け見学会
日 時：12月頃
場 所：未定
- 17) (中国支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月15日(金)
場 所：広島県情報プラザ
- 18) (中国支部) 講演会および新赴任教員の研究紹介
日 時：9月～11月
場 所：未定
- 19) (中国支部) 技術・研究交流会
日 時：9月～11月
場 所：未定
- 20) (中国支部) 「わかりやすいコンクリート」講習会
日 時：12月
場 所：山口県
- 21) (四国支部) 支部総会特別講演会 (支部創立20周年記念特別講演会)
日 時：4月14日(火)
場 所：ホテル パールガーデン
- 22) (四国支部) 「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告
日 時：4月14日(火)
場 所：ホテル パールガーデン
演 題：「コンクリート学習」
講 師：未定 (高松工芸高等学校)

- 23) (四国支部) コンクリート構造物の品質確保のための新技術開発と実践に関する研究委員会成果報告会
日 時：6月頃
場 所：未定
- 24) (四国支部) 若手のための技術講演会 in 愛媛
日 時：未定
場 所：未定
- 25) (四国支部) コンクリートに関する技術情報交換会
日 時：1回/年
場 所：オンライン (ライブ形式)
- 26) (四国支部) 見学会
日 時：未定
場 所：未定
- 27) (九州支部) 支部活動報告会特別講演会
日 時：4月17日 (金)
場 所：福岡ファッションビル7階2号ホール
- 28) (九州支部) 九州支部第8回学生シンポジウム
日 時：未定
場 所：未定
- 29) (九州支部) 九州支部第5回技術者勉強会
日 時：未定
場 所：未定
- 30) (九州支部) 見学会
日 時：未定
場 所：未定
- 31) (九州支部) 講習会
日 時：未定
場 所：未定

[公3 表彰事業]

1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

(1) 論文賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞(論文賞)」

を贈り表彰する。

(2) 技術賞

本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同（技術賞）」を贈り表彰する。

(3) 作品賞

コンクリートで構成され、美的価値または技術的価値あるいはその両方、独創性、および環境との調和において、優れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同（作品賞）」を贈り表彰する。

(4) 奨励賞

本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同（奨励賞）」を贈り表彰する。

(5) 功労賞

本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同（功労賞）」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

以下の5つの支部において支部表彰を行う。

(1) 北海道支部

支部功績賞、支部優秀学生賞の対象者を募集し、支部のコンクリート工学の発展に著しい貢献をした者および優れた研究成果をあげた学生を対象にそれぞれ表彰する。

(2) 東北支部

支部表彰規程に基づき、論文賞・技術賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員を選考する。表彰は功労賞も含めて次年度の支部総会で行う。また、東北支部30周年記念事業として「特別功労賞」の表彰を行う。

(3) 中部支部

令和8年度から、中部支部論文賞・技術賞を設置し、令和9年1月頃の総会で表彰式を行う。

(4) 近畿支部

支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の40歳未満の著者を対象に表彰する。

(5) 中国支部

コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター」の認定者とする。

(6) 九州支部

九州・沖縄地区の大学、大学院、高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生、修了生に支部長賞を与える。

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・コンクリート主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・主任技士試験

コンクリート技士・主任技士試験を11月29日(日)、全国9都市において実施する。

(2) コンクリート技士・主任技士研修

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士・主任技士研修を、登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート技士・主任技士登録者および未登録者を対象として、eラーニングにて、8月5日(水)から9月24日(木)まで実施する。

(3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士・主任技士研修を受講し、登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート技士・主任技士試験合格者の申請により登録を行う。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

コンクリート診断士講習をeラーニングにて、4月6日(月)から5月19日(火)まで実施する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月26日(日)、全国9都市において実施する。

(3) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士研修を、登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート診断士登録者および未登録者を対象として、eラーニングにて、9月1日(火)から9月30日(水)まで実施する。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士研修を受講し、登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート診断士試験合格者の申請により登録を行う。

3. 資格・講習委員会

各資格関係委員会での検討内容を審議し、承認を行う。また、コンクリート技士・主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者の内定を行い、理事会に付議する。その他、必要に応じて

資格審査会の開催および国土交通省技術者資格の登録・更新を行う。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ 2026

コンクリート工学年次大会2026（奈良）と併行して、コンクリート関連企業および団体による、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

III その他

1. 名誉会員の表彰

本学会の目的達成に多大な貢献をした会員に、名誉会員の称号を贈る。

2. 終身会員およびフェロー会員の表彰

コンクリート工学の見識に優れ、本学会の活動を長年にわたり支援した会員に終身会員の称号を、また、コンクリート工学の見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし社会に貢献した会員にフェロー会員の称号を贈る。

3. 定款・規則改定

定款および学会規則の改定に関して審議し、理事会に付議する。

4. 代議員選挙

代議員の任期満了に伴い、代議員選挙規則に基づき、代議員選挙を実施する。

以上